

30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50

爪雪美談

時狀鏡

癖情

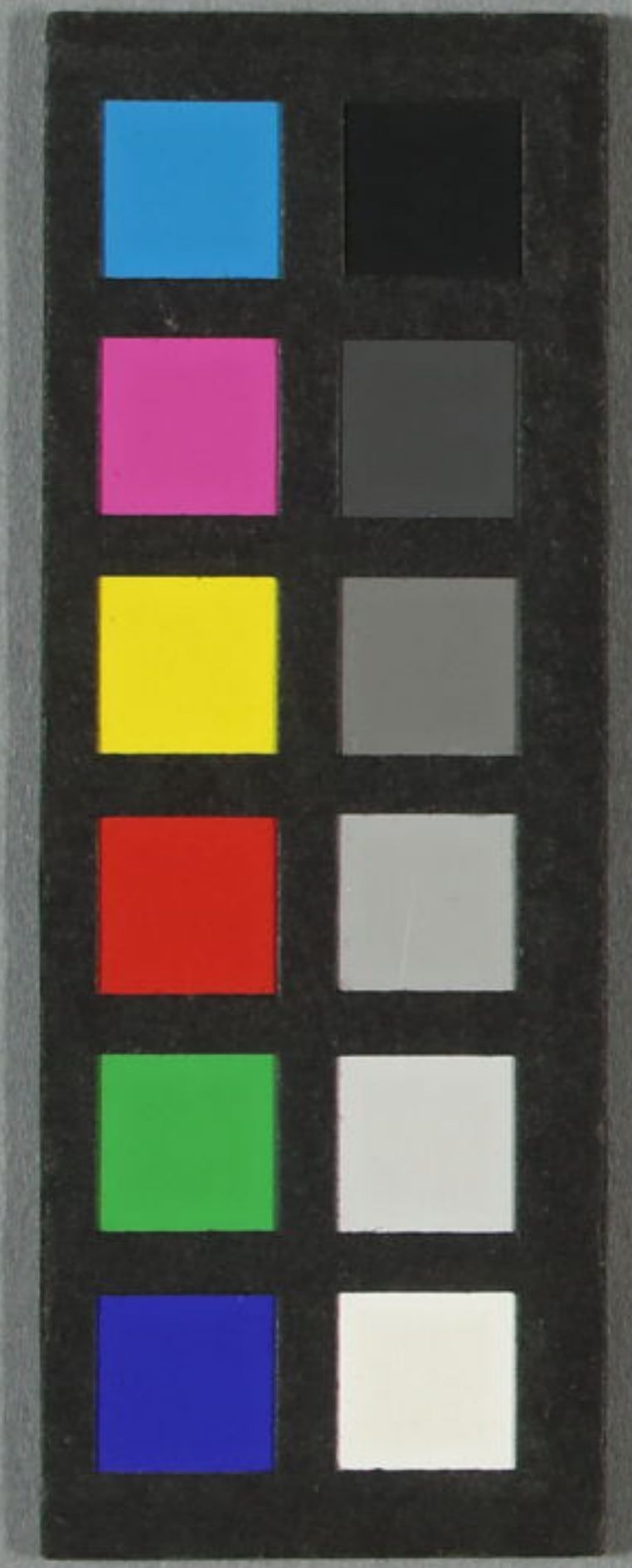
以光也

四十六編

心女半棒



13
3756
20

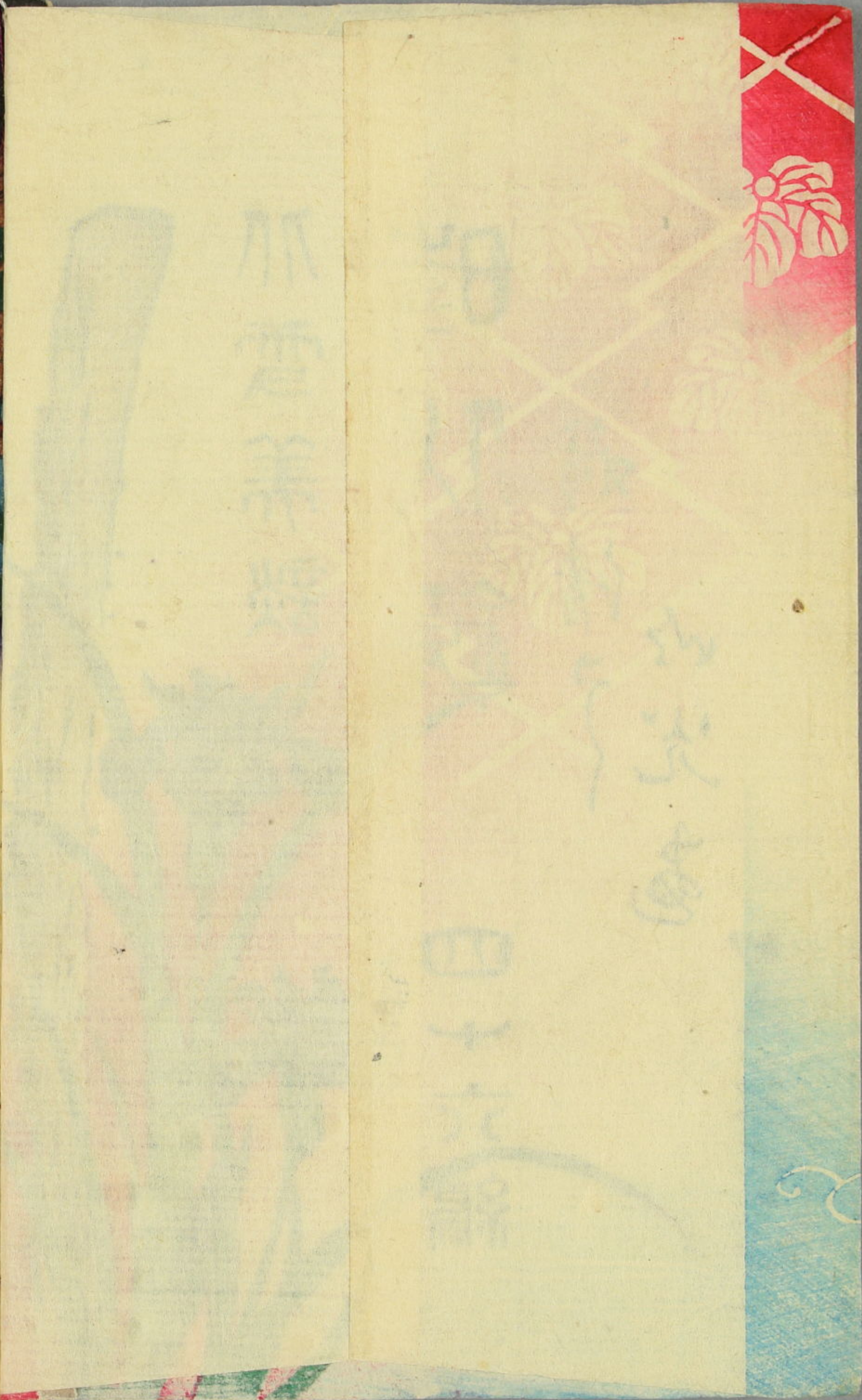




柳清
氏名

應需吟光画

四十六編上



門 へ13
3756
巻 29



水々々々
美多々々

時代鏡

ゆがふ神のこ

掬賀典

天網恢々罪比厘毫も赦さるるごとく作者も有斯罪罟

汝得バ加賀能登越中前後はゆで遺らば羅しと這

裨史返隅りの隈もて結合おんし思へとも素が

深寄大人逆腹稿越中禪法綱すても他の四

箇國ハ泄る木うかよとれよの暨ぶぬ網簀の梓主

汁おのてよ乗のみまそ他の棍て角カハ取まよ密捉手之知

がまは足柄極ふて栗殼汁深い谿谷へ抛らまぬ用公の經よちが

きぬるしつり

柳水亭種清述

寺代日記

正於の嫡子狗喜代を氣
比朝二鞭ふ父が危中乃
安成見くは



錢屋五銚の子息花
平駄が鳥鯛駕る
ハ来日飛馬河の鏡
傑も景況は比之



寺
二
日

田
二
日



柳水亭種清作
松齋吟宛畫畫

あきせんうのくり
とよふえとけあや
らむのたのしくゆそ
をさるわねがむか
のたさまのこせひ
うたうねむのこひ
つちりくうとや
あやのひのさき
つめりまをすち
なさむりこころの
きぬきをむとわら
こよく痛楚はな
おのれはさき
いづちのこひ
まじりやのこひ

高麗画の下の巻の紙遊
奪へる密書考命を知
かやまの
かやまの
かやまの

風流画半切

越前奉書紙。物しり所半切
伊藤奉書紙。かみり所半切

正清百圖全。大津四つ
狂骨画。日長様

忠臣義士銘々傳。大津き橋
猛齋芳虎画。半切抄

野所ゆりか筒

信の包。世の人の
外取あり。一すのり合
寄客のしる

當年
新板
壽
おねく
おね

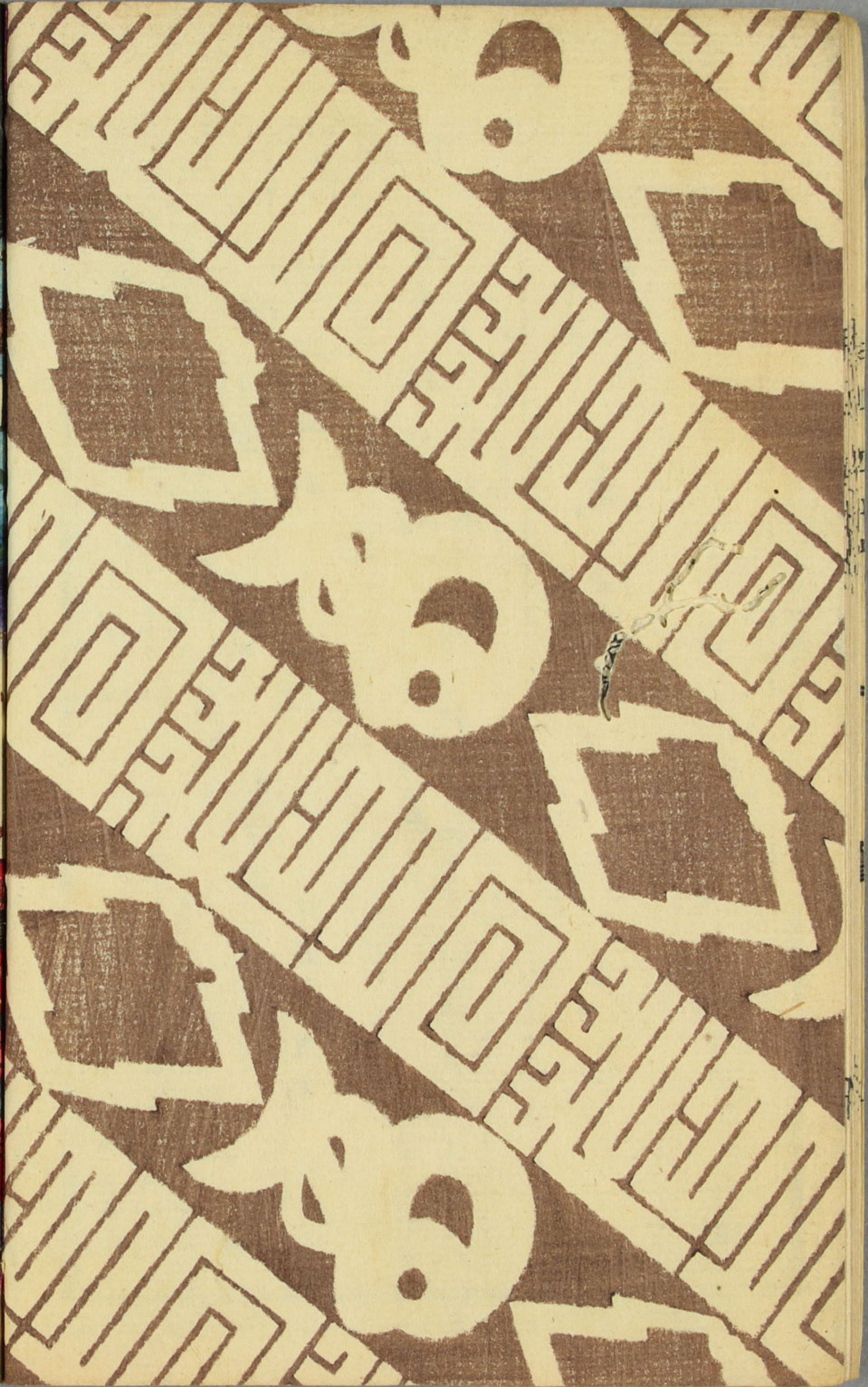
東市書信。所奉玉内進物入たぐり
若林堂板

北雪
美談
時代鏡



四十六編下

和子
梓





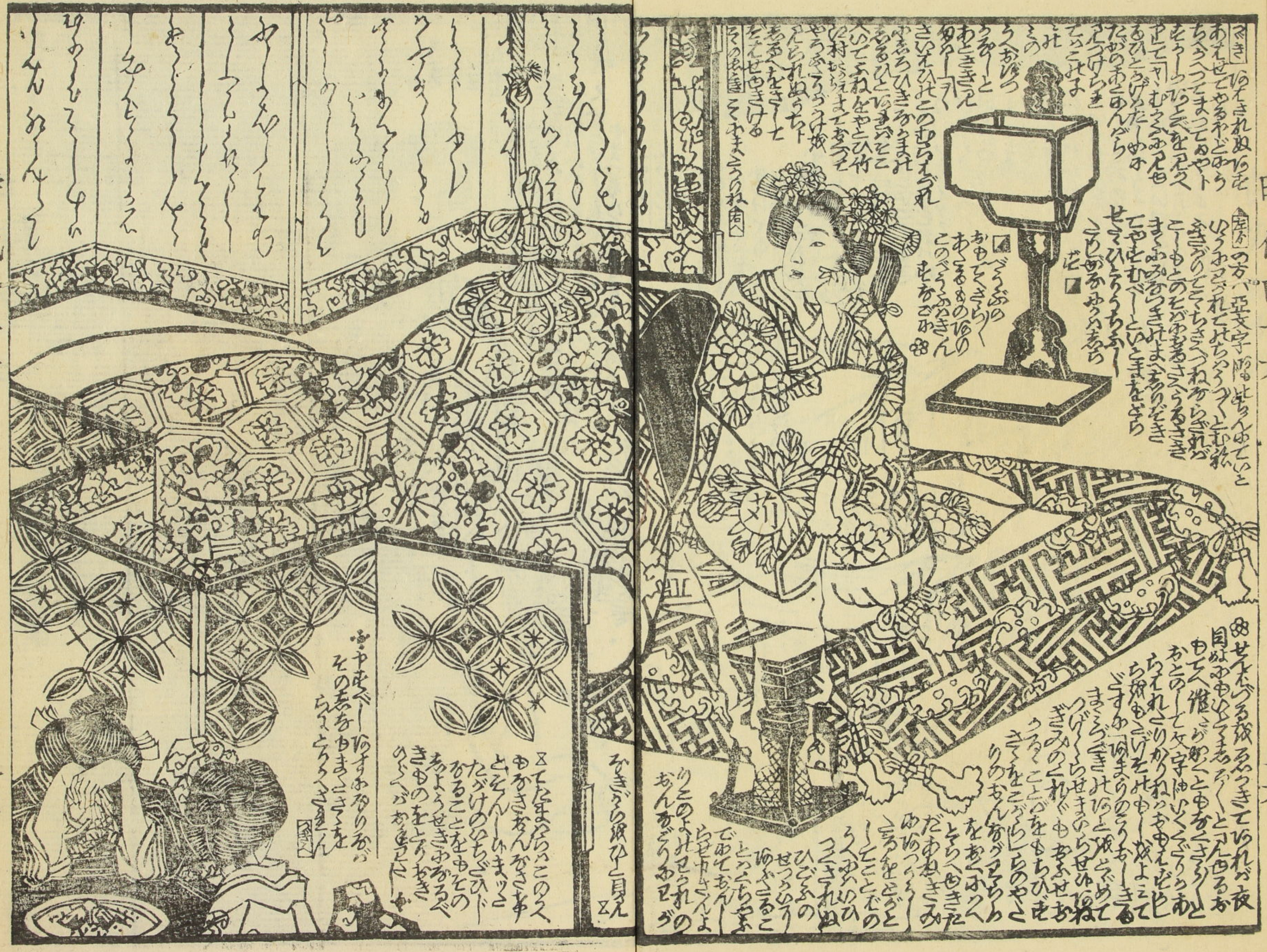
かくあし
 みる群
 かしら
 十六海下
 ちのな



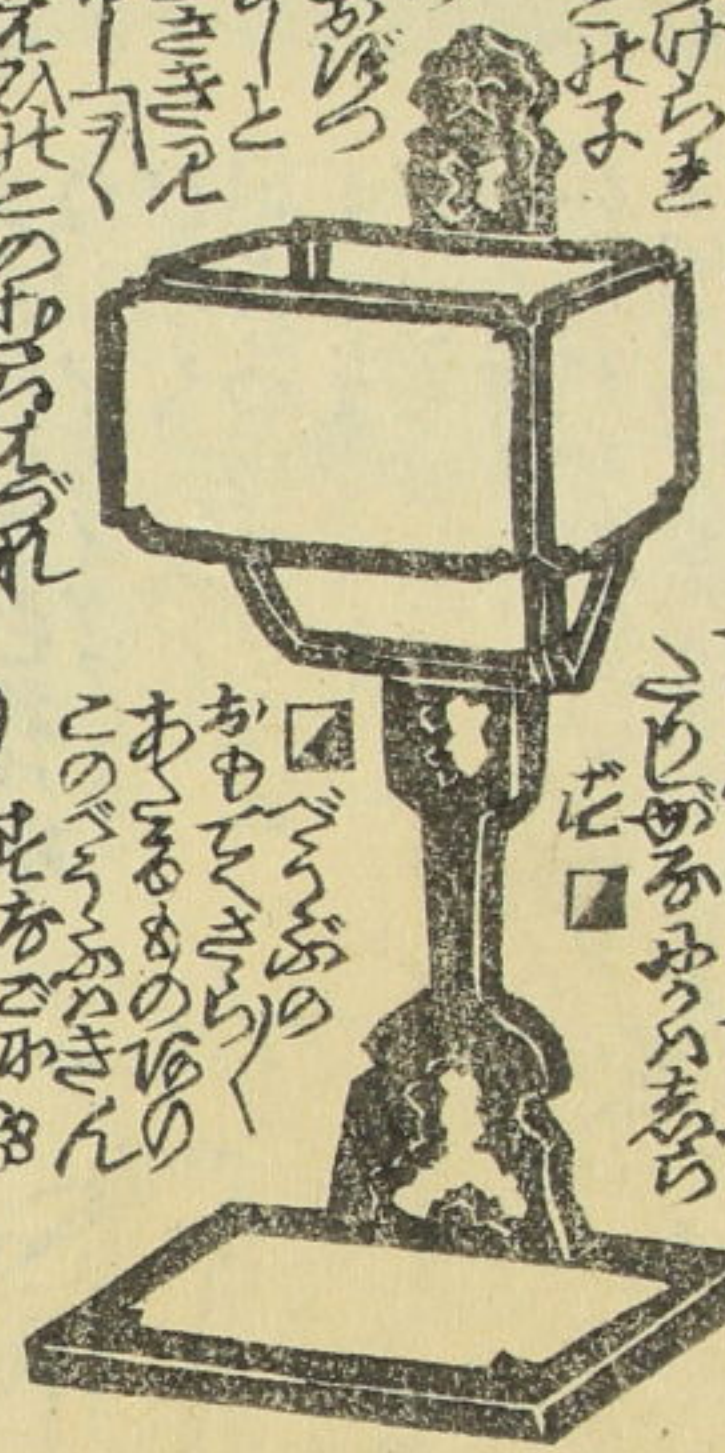
三の葉...
 かしら...
 十六海下...
 ちのな...

かしら...
 十六海下...
 ちのな...

寺代 四十六



あまのてきれぬを
あせせとちやわとわら
ちかへつとまつてわや
をうらうらとををええ
ててやむらえええ
あひとあひたしゆか
たかひのあひんから
てつひらき
てこれよ



うかびつ
うかびつ
わきまきえ
わきまきえ
さいえみれこのむらとれ
あまのてきれぬを
あせせとちやわとわら
ちかへつとまつてわや
をうらうらとををええ
ててやむらえええ
あひとあひたしゆか
たかひのあひんから
てつひらき
てこれよ

あまのてきれぬを
あせせとちやわとわら
ちかへつとまつてわや
をうらうらとををええ
ててやむらえええ
あひとあひたしゆか
たかひのあひんから
てつひらき
てこれよ

あまのてきれぬを
あせせとちやわとわら
ちかへつとまつてわや
をうらうらとををええ
ててやむらえええ
あひとあひたしゆか
たかひのあひんから
てつひらき
てこれよ

あまのてきれぬを
あせせとちやわとわら
ちかへつとまつてわや
をうらうらとををええ
ててやむらえええ
あひとあひたしゆか
たかひのあひんから
てつひらき
てこれよ

あまのてきれぬを
あせせとちやわとわら
ちかへつとまつてわや
をうらうらとををええ
ててやむらえええ
あひとあひたしゆか
たかひのあひんから
てつひらき
てこれよ



あまのてきれぬを
あせせとちやわとわら
ちかへつとまつてわや
をうらうらとををええ
ててやむらえええ
あひとあひたしゆか
たかひのあひんから
てつひらき
てこれよ

あまのてきれぬを
あせせとちやわとわら
ちかへつとまつてわや
をうらうらとををええ
ててやむらえええ
あひとあひたしゆか
たかひのあひんから
てつひらき
てこれよ

明治六年癸酉新年刺目録

地本草紙問屋 若林堂

芝神前
若狹屋與市梓

池園との語

初編
山々亭有人作
歌川國貞画

雑談雨夜質庫

八編
陽齋豊國画
門人 國久画

北雪時代加賀實

一編
為永春水作
歌川國貞画

御届明治十五年一月廿日
編輯人 櫻澤堂 山
出版人 芝三島野十番地 山本與市

暗小 鯛魚の怪奇
猛膽

桂折
七編
演

二十 若狹屋と市梓

